

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」（昭和40年法律第109号）により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。12月に「平成30砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」を公表した（詳細は2019年2月号参照）。

平成30砂糖年度（10月～翌9月）の見通し

【砂糖】

総消費量：192万6000トン（前回見通しから1000トン増）

総供給量：188万2000トン（同2万7000トン減）

【加糖調製品】

消費量および供給量：52万8000トン（前年度同）

【異性化糖】

消費量および供給量：82万6000トン（同9000トン増）

表1 平成30砂糖年度における砂糖の需給見通し

（単位：千トン）

		平成29砂糖年度 （実績）	平成30砂糖年度（見通し）				合 計	
			10月～12月 （実績見込み）	1月～3月 （見通し）	4月～6月 （見通し）	7月～9月 （見通し）		
消費量	分みつ糖	1,861	503.6	442.4	475.5	468.6	1,890	
	含みつ糖	36	6.1	14.1	9.0	6.2	36	
	合 計	1,897	509.7	456.5	484.5	474.8	1,926	
供給量	国内産糖	分みつ糖	784	338.7	345.2	55.3	-	739
		含みつ糖	10	0.7	7.6	1.3	-	10
		小計	794	339.4	352.8	56.6	-	749
	輸入糖	分みつ糖	1,123	326.7	176.7	301.8	318.0	1,123
		含みつ糖	10	1.6	4.6	3.1	0.8	10
		小計	1,133	328.3	181.3	304.8	318.8	1,133
	合計	分みつ糖	1,907	665.4	521.9	357.1	318.0	1,862
		含みつ糖	20	2.3	12.3	4.3	0.8	20
		小計	1,927	667.7	534.2	361.4	318.8	1,882
	期末在庫		311	457.1	534.8	411.7	255.6	256

資料：農林水産省「平成30砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

表2 平成30砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

（単位：千トン）

	平成29砂糖年度 （実績）	平成30砂糖年度（見通し）				合 計
		10月～12月 （実績見込み）	1月～3月 （見通し）	4月～6月 （見通し）	7月～9月 （見通し）	
消費量	528	138.1	118.1	137.1	134.5	528
供給量	528	138.1	118.1	137.1	134.5	528

資料：農林水産省「平成30砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：改正糖価調整法（平成30年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：平成30砂糖年度の消費量は、平成29砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

表3 平成30砂糖年度における異性化糖の需給見通し

	平成29砂糖年度 (実績)	平成30砂糖年度 (見通し)				合計
		10月-12月 (実績見込み)	1月-3月 (見通し)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	832	179.0	179.4	244.8	222.8	826
供給量	832	179.0	179.4	244.8	222.8	826

資料：農林水産省「平成30砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」
注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2. 異性化糖の移出動向

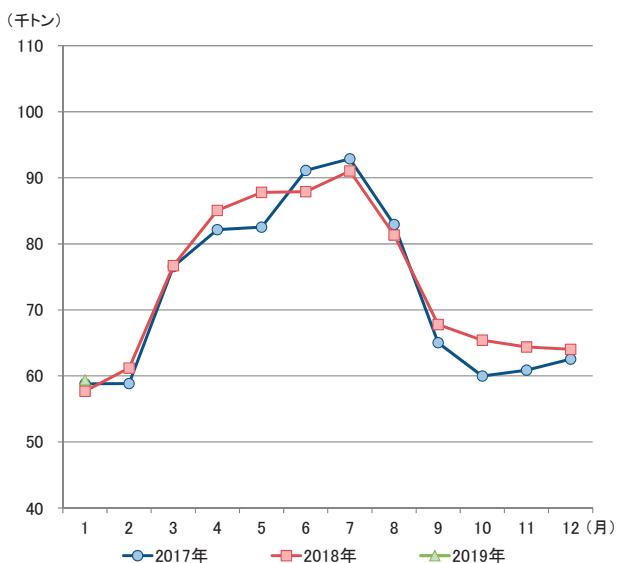
1月の移出数量は前年同月からやや増加

2019年1月の異性化糖の移出数量は、5万9413トン（前年同月比3.0%増、前月比7.2%減）であった（図1）。

1月の規格別の移出量は、次の通りであった（図2）。

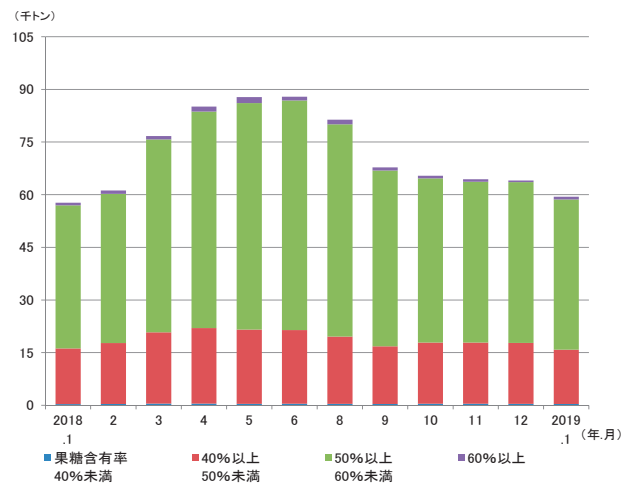
- 果糖含有率40%未満 360トン
（前年同月比5.5%増、前月比14.8%減）
- 同40%以上50%未満 1万5510トン
（同2.3%減、同10.6%減）
- 同50%以上60%未満 4万2765トン
（同5.0%増、同6.6%減）
- 同60%以上 778トン
（同5.1%増、同68.9%増）

図1 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図2 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

3. 輸入動向

【分みつ糖の輸入動向】

12月の輸入量は前年同月から大幅に減少

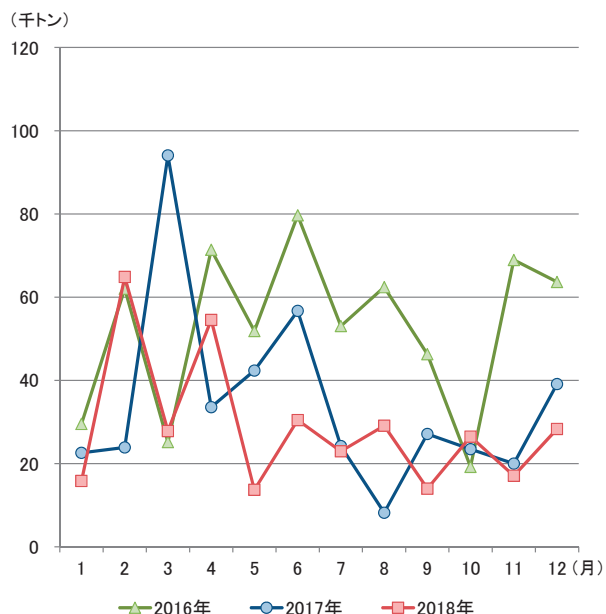
財務省「貿易統計」によると、2018年12月の分みつ糖（HSコード 1701.14-110）の輸入量は、2万8301トン（前年同月比27.7%減、前月比65.8%増）であった（図3）。

輸入先国はタイのみで、輸入量は次の通りであった（図4）。

- タイ 2万8301トン
（前年同月輸入実績なし、前月比65.8%増）

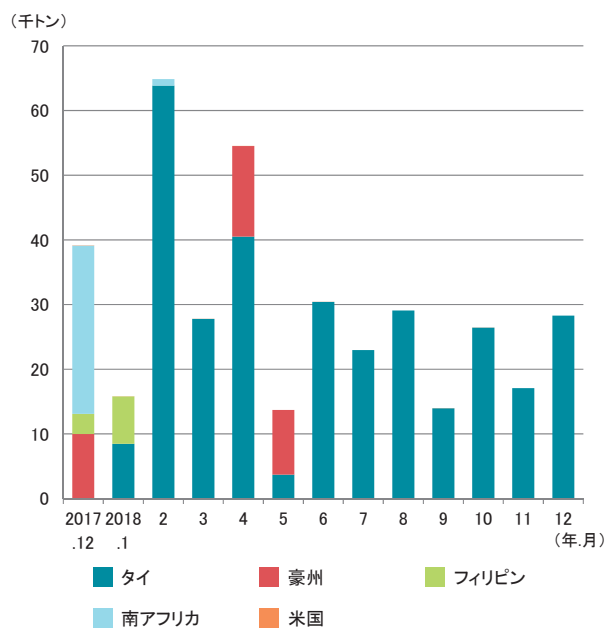
また、同月における豪州からの高糖度原料糖（糖度98.5度以上99.3度未満、HSコード1701.14-200）の輸入量は、12万6475トン（前年同月比39.1%増、前月比2.1倍）であった。

図3 分みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110

図4 分みつ糖の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110

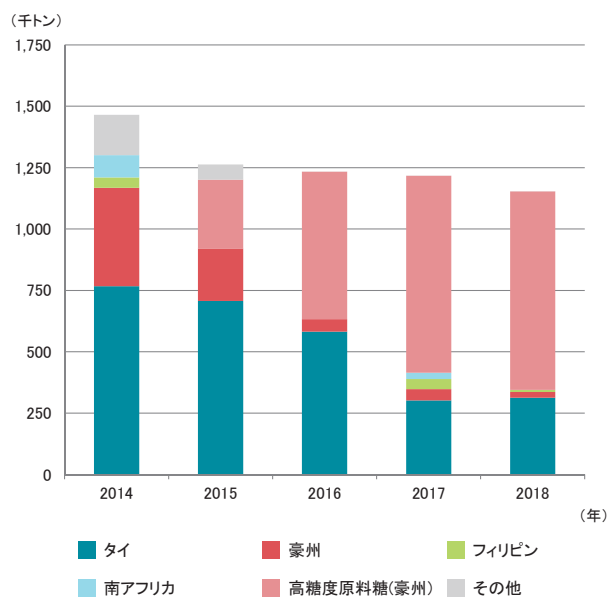
2018年1～12月の分みつ糖の輸入量は34万4992トン（前年比16.9%減）で、豪州からの高糖度原料糖80万8152トン（同0.8%増）と合わせた輸入量は115万3144トン（同5.2%減）であった（図5）。

輸入先国は豪州、タイ、フィリピン、南アフリカおよび米国などの5カ国で、国別の輸入量は次の通りであった。

豪州	83万2125トン ^(注) (前年比1.9%減)
タイ	31万2557トン (同3.6%増)
フィリピン	7345トン (同82.0%減)
南アフリカ	988トン (同96.2%減)
米国	129トン (同16.2%増)

(注) 高糖度原料糖の輸入量を含む。

図5 分みつ糖の年別国別輸入量の推移



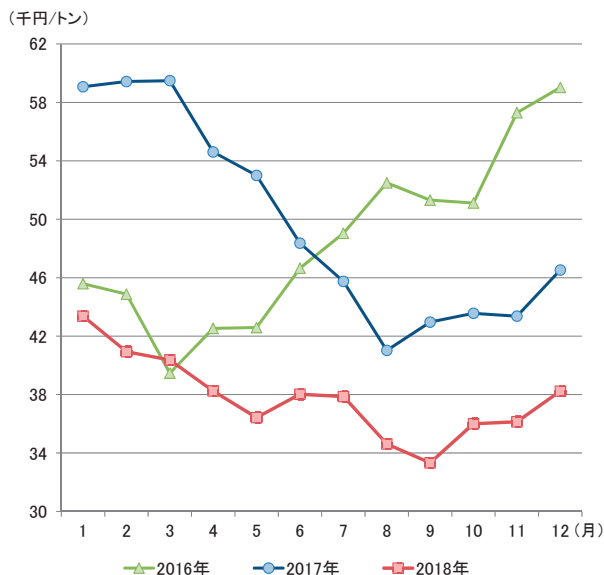
資料：財務省「貿易統計」
注1：HSコード1701.14-110、1701.14-200（豪州のみ）
注2：2018年は速報値である。

2018年12月の1トン当たりの輸入価格は、3万8237円（前年同月比17.8%安、前月比5.8%高）であった（図6）。

タイ	3万8237円 (前年輸入実績なし、前月比5.8%高)
----	--------------------------------

また、同月における豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、3万7367円（前年同月比17.3%安、前月比0.4%高）であった。

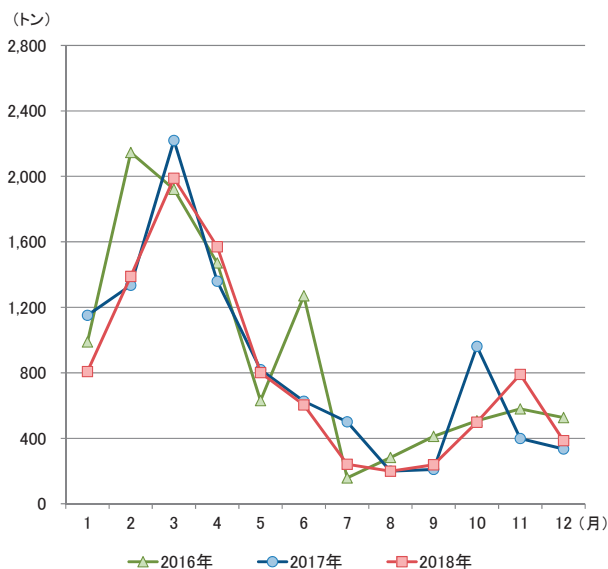
図6 分みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110

タイ 21トン
(前年同月輸入実績なし、同50.0%減)
モーリシャス 20トン
(前年同月および前月輸入実績なし)

図7 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

【含みつ糖の輸入動向】

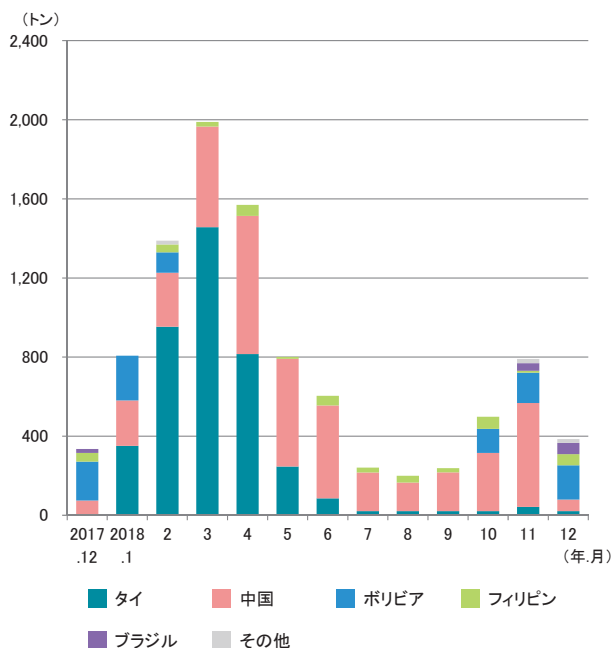
12月の輸入量は前年同月からかなり増加

財務省「貿易統計」によると、2018年12月の含みつ糖（HSコード 1701.13-000、1701.14-190）の輸入量は、386トン（前年同月15.2%増、前月比51.1%減）であった（図7）。

輸入先国はボリビア、中国、ブラジル、フィリピンなど6カ国で、国別の輸入量は次の通りであった（図8）。

ボリビア 173トン
(前年同月比12.2%減、前月比12.3%増)
中国 59トン
(同20.3%減、同88.8%減)
ブラジル 57トン
(同3.0倍、同50.0%増)
フィリピン 56トン
(同24.4%増、同5.6倍)

図8 含みつ糖の国別輸入量の推移



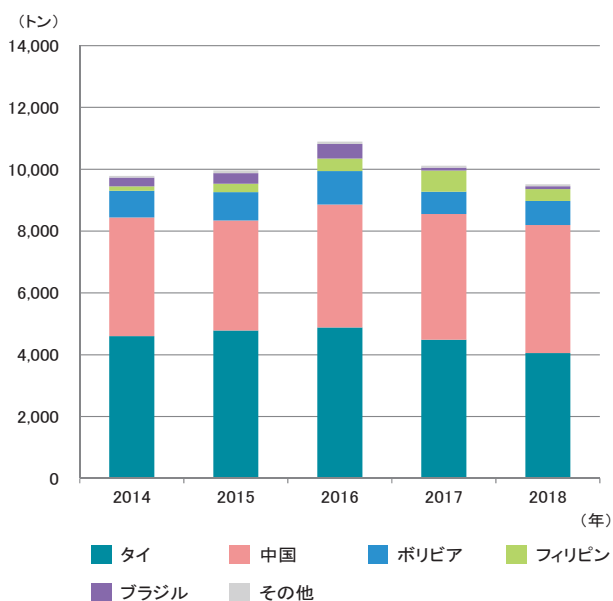
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2018年1～12月の含みつ糖の輸入量は、9512トン（前年比6.0%減）であった（図9）。

輸入先国は中国、タイ、ボリビア、フィリピンおよびブラジルなど8カ国で、国別の輸入量は次の通りであった（図9）。

中国	4139トン
（前年比1.8%増）	
タイ	4055トン
（同9.6%減）	
ボリビア	777トン
（同7.9%増）	
フィリピン	385トン
（同44.2%減）	
ブラジル	95トン
（前年同）	
コスタリカ	40トン
（前年比2.0倍）	
モーリシャス	20トン
（同50.0%減）	
台湾	1トン
（前年輸入実績なし）	

図9 含みつ糖の年別国別輸入量の推移



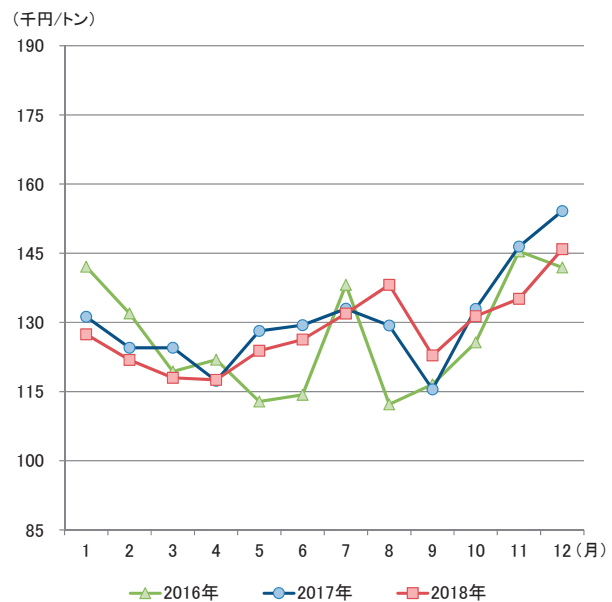
資料：財務省「貿易統計」
注1：HSコード1701.13-000、1701.14-190
注2：2018年は速報値である。

2018年12月の1トン当たりの輸入価格は、14万5870円（前年同月比5.4%安、前月比8.0%高）であった（図10）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

ボリビア	13万8185円
（前年同月比0.3%高、前月比2.4%高）	
中国	12万7119円
（同16.9%安、同0.8%安）	
ブラジル	23万754円
（同2.7%安、同0.7%安）	
フィリピン	13万5464円
（同29.7%安、同47.7%安）	
タイ	9万7429円
（前年同月輸入実績なし、同21.2%高）	
モーリシャス	10万5750円
（前年同月および前月輸入実績なし）	

図10 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

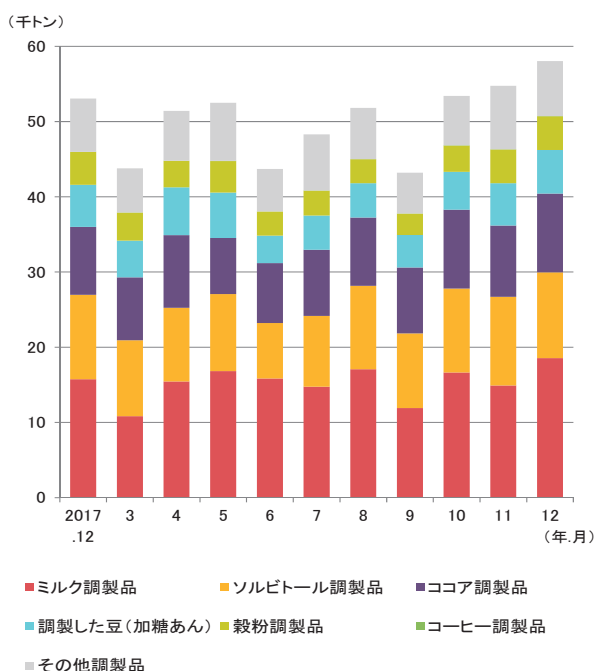
【加糖調製品の輸入動向】

12月の加糖調製品の輸入量は前年同月からかなり増加

財務省「貿易統計」によると、2018年12月の加糖調製品の輸入量は、5万8023トン（前年同月比9.4%増、前月比6.0%増）であった（図11）。

品目別の輸入量は、次の通りであった（表4）。

図11 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：各品目のHSコードは次の通り。

ココア調製品：1806.10-100、1806.20.111、1806.20-190

コーヒー調製品：2101.11-100、2101.12-110、2101.12-246

調製した豆（加糖あん）：2005.40-190、2005.51-190、2005.99-119

ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-284

ソルビトール調製品：2106.90-510

穀粉調製品：1901.90-251、1901.90-252

その他調製品：2106.90-590、2101.20-246、2106.90-282、2106.10-219

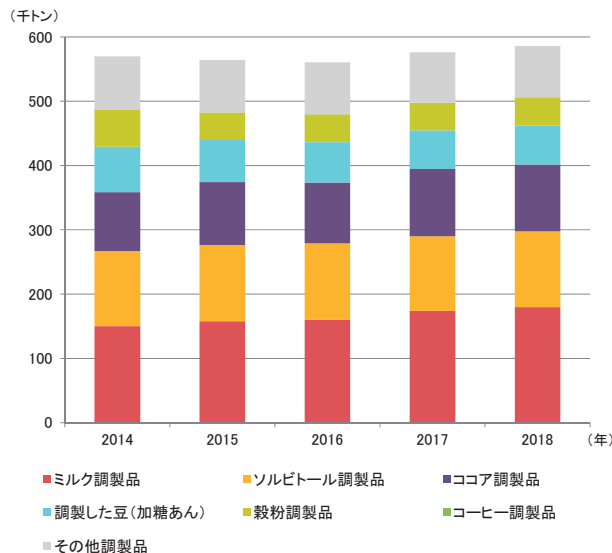
表4 加糖調製品の品目別輸入数量（12月）

区分	輸入量 (トン)	前年同月比 (%)	前月比 (%)
ミルク調製品	18,551	17.8	24.3
ソルビトール調製品	11,409	1.5	▲ 3.1
ココア調製品	10,461	16.0	10.4
調製した豆（加糖あん）	5,799	3.7	2.7
穀粉調製品	4,481	2.7	0.4
コーヒー調製品	35	13.2	▲ 22.6
その他調製品	7,288	3.1	▲ 13.5

資料：財務省「貿易統計」

2018年1～12月の加糖調製品の輸入量は、58万5799トン（前年比1.7%増）となった（図12）。品目別の輸入量は、次の通りであった（表5）。

図12 加糖調製品の年別品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：各品目のHSコードは次の通り。

ココア調製品：1806.10-100、1806.20.111、1806.20-190

コーヒー調製品：2101.11-100、2101.12-110、2101.12-246

調製した豆（加糖あん）：2005.40-190、2005.51-190、2005.99-119

ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-284

ソルビトール調製品：2106.90-510

穀粉調製品：1901.90-251、1901.90-252

その他調製品：2106.90-590、2101.20-246、2106.90-282、2106.10-219

注2：2018年は速報値である。

表5 加糖調製品の2018年品目別輸入量

区分	輸入量 (トン)	前年比 (%)
ミルク調製品	179,609	3.3
ソルビトール調製品	118,097	1.7
ココア調製品	103,926	▲ 0.8
調製した豆（加糖あん）	60,546	0.9
穀粉調製品	43,764	2.3
コーヒー調製品	368	17.4
その他調製品	79,490	1.4

資料：財務省「貿易統計」

4. 価格動向

【市場価格】

砂糖、異性化糖ともに前月と同水準で推移

1月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は

次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京	1キログラム当たり187～188円
大阪	同187～188円
名古屋	同191円
関門	同191円

上白糖（小袋）

東京	1キログラム当たり199～202円
大阪	同202円

本グラニュー糖（大袋）

東京	1キログラム当たり192～193円
大阪	同192～193円
名古屋	同196円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京	1キログラム当たり187～188円
大阪	同187～188円
名古屋	同189円

1月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり131～132円

果糖分55%もの

同137～138円

【小売価格】

1月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で18.5円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける1月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、191.4円（前年同月差2.6円安、前月差0.5円高）であった。

同月の地域別^{（注）}の平均小売価格は次の通りであった（表6）。

表6 上白糖の地域別平均小売価格（1月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	199.8	2.9	0.7
東北	201.6	5.6	1.6
関東など	183.7	2.3	0.4
首都圏	185.3	▲ 11.4	▲ 3.5
中部	183.1	0.8	1.2
関西	192.9	▲ 0.4	0.8
中国・四国	200.9	▲ 6.5	0.7
九州・沖縄	193.9	▲ 4.6	6.0
全平均	191.4	▲ 2.6	0.5

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

最も高かったのは東北で、最も安かった中部との価格差は18.5円であった。

（注）地域の内訳は次の通りである。以下、グラニュー糖および三温糖も同じである。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

1月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で73.1円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける1月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、241.4円（前年同月差1.8円安、前月差0.5円安）であった。

同月の地域別の平均小売価格は次の通りであった（表7）。

表7 グラニュー糖の地域別平均小売価格（1月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	203.0	1.2	0.0
東北	276.1	▲ 0.1	1.1
関東など	248.5	▲ 0.2	▲ 0.3
首都圏	247.6	1.3	▲ 0.9
中部	250.9	2.6	2.3
関西	229.5	▲ 0.5	1.1
中国・四国	246.0	▲ 16.2	▲ 7.5
九州・沖縄	216.6	▲ 7.4	0.0
全平均	241.4	▲ 1.8	▲ 0.5

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ（全国535店舗））

最も高かったのは東北で、最も安かった北海道との価格差は73.1円であった。

1月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で51.3円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける1月の三温糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、236.2円（前年同月差0.3円安、前月差2.2円高）であった。

同月の地域別の平均小売価格は次の通りであった（表8）。

表8 三温糖の地域別平均小売価格（1月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	243.1	▲ 8.1	8.4
東北	259.3	1.0	1.0
関東など	245.3	3.8	0.1
首都圏	232.9	2.8	4.9
中部	230.1	1.6	2.5
関西	230.4	4.1	1.7
中国・四国	244.6	▲ 9.0	▲ 5.4
九州・沖縄	208.0	▲ 6.2	1.5
全平均	236.2	▲ 0.3	2.2

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ（全国535店舗））

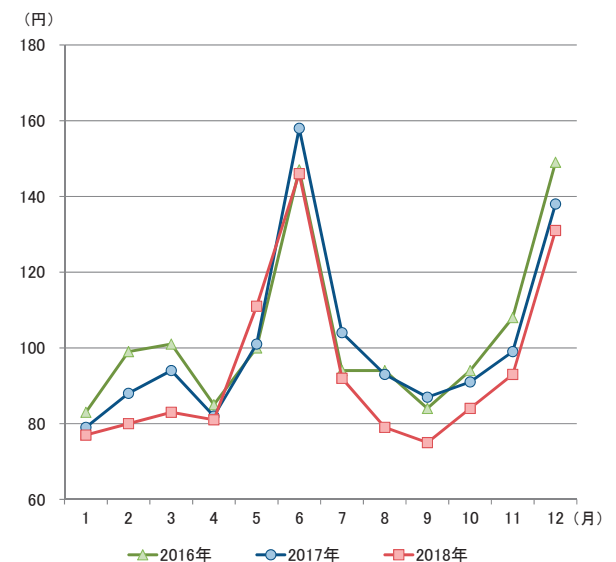
最も高かったのは東北で、最も安かった九州・沖縄との価格差は51.3円であった。

【購入金額および購入量】

12月の砂糖の支出金額は前年同月からやや下落

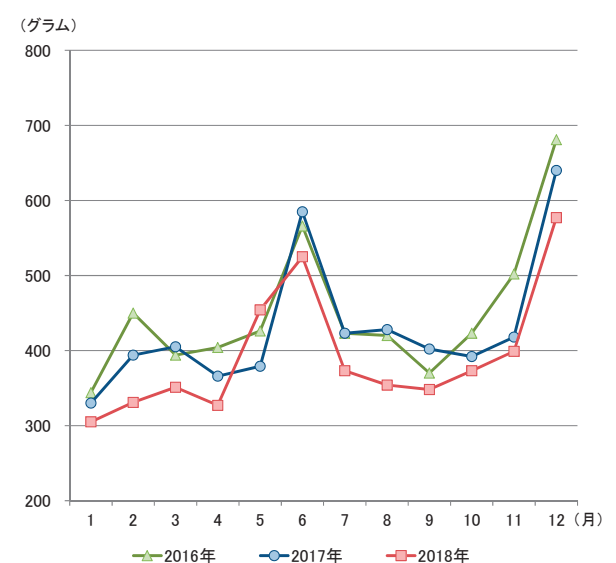
総務省「家計調査」によると、2018年12月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は54、1世帯（2人以上）当たりの支出金額は、131円（前年同月比5.1%安、前月比40.9%高）であった（図13）。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、577グラム（同9.8%減、同44.6%増）であった（図14）。

図13 1世帯当たりの砂糖に係る支出額の推移



資料：総務省「家計調査」

図14 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移



資料：総務省「家計調査」